

《女川原子力発電所「品質月間」集会を開催しました》

11月1日(水)からの1ヵ月間、「第58回品質月間」が全国大で繰り広げられています。女川原子力発電所では、この取り組みに呼応し、業務品質に対する一層の意識の高揚を図るため、発電所および構内協力企業合同による品質月間行事を展開しています。この一環として、11月1日(水)に「品質月間」集会を開催し、発電所員および構内協力企業社員約1,400人が参加しました。

集会では、優れた品質管理を行っている協力企業や品質向上への意識を高める標語を提案した社員を表彰するとともに、過去に発生したヒューマンエラーや労働災害をふり振り返り、安全を最優先に、原子力発電所としての品質を更に高めていくことを確認しました。

最後に、参加者全員で優秀作品に選ばれた標語を唱和し、品質保証活動の一層の強化について誓いを新たにしました。

品質月間標語 優秀賞

- ・ちょっと待て! ふとした違和感見過ごすな!
小さな気配り 地道な努力 継続してこそ 価値ある品質
- ・あなたの気付きが 仲間を守る 一声かけ合い 安全確認
育てよう! 明るい職場 届けよう! 高品質



業務品質が優秀な協力企業を表彰



全員で品質月間入選標語を指差唱和

常に備える①

《定期的な電源確保訓練で対応能力の維持・向上を図っています》

～万一に備えたさまざまな設備を実際に動かすのは「人」です。どんな事態にも冷静・迅速・的確に対応できるよう日頃から訓練を重ねています。～

原子炉を安全に停止し、冷却するためには、命綱とも言える電源が重要となります。女川原子力発電所では、万が一の事故の際に、電源を確保するための対策の1つとして、津波等の影響を受けない高台に電源車を複数台配備しております。もともと発電所に設置している非常用ディーゼル発電機などが使用不能となった場合を想定し、電源車より電源供給を行うための訓練を、月に1回の頻度で実施しております。

10月25日(水)に実施した訓練では、2号機原子炉建屋への電源供給を想定した訓練を実施いたしました。

発電所の安全を確保するのは「人」です。今後も様々な事象を想定し、繰り返し訓練を行うことで、迅速かつ的確な対応能力の維持・向上に努めてまいります。



「ケーブル接続部の確認」の様子

私は被災地の出身ということもあり、福島第一と同じ様な事故を起こさないため、日々の訓練に励んでおります。
実際に電源車が必要になった場合に、訓練のように操作できるよう努力してまいります。



すずき りょうた
保全部 電気グループ 鈴木 涼太(福島県出身)



あじき よあけ
保全部 電気グループ 安喰 世皓(山形県出身)

今回は、初めて、指揮者として訓練を行いました。実際に電源車が必要となった場合でも、落ち着いて迅速に行動できるようにこれからも努力してまいります。



「発電機の起動操作」の様子

《女川原子力PRセンター「収穫祭2017」を開催しました》

10月29日(日)、女川原子力PRセンターにおいて、「収穫祭2017」を開催しました。

この収穫祭は、地域のみなさまへ日頃の感謝の気持ちを含めて開催しているものです。当日は雨天のため、敷地内にある「スイートガーデン」で育てた「りんご・大根・さつまいも」の収穫体験は出来ませんでした。試食コーナー、ものづくり体験コーナー、お子さまに人気のキャラクターショーなどで、秋のひと時をお楽しみいただきました。

【雨天にもかかわらず、約450名の地域の皆さまにお越しいただきました。】



事務局が収穫した「りんご・大根・さつまいも」はお子さま向けに配布させていただきました。



「女川潮騒太鼓(轟会)」の様子

リアスの戦士 イーガーも登場

《こんにちは人形劇を開催しました》

石巻市立鮎川小学校および女川町勤労青少年センターにおいて、地域の保育園児、小学生を対象とした「東北電力こんにちは人形劇」を開催しました。

等身大の人形の登場に大きな歓声が上がるなど、児童・生徒の皆さんには楽しい時間を過ごしていただきました。



9月28日(木)石巻市立鮎川小学校で「アリとキリギリス」を上演しました。



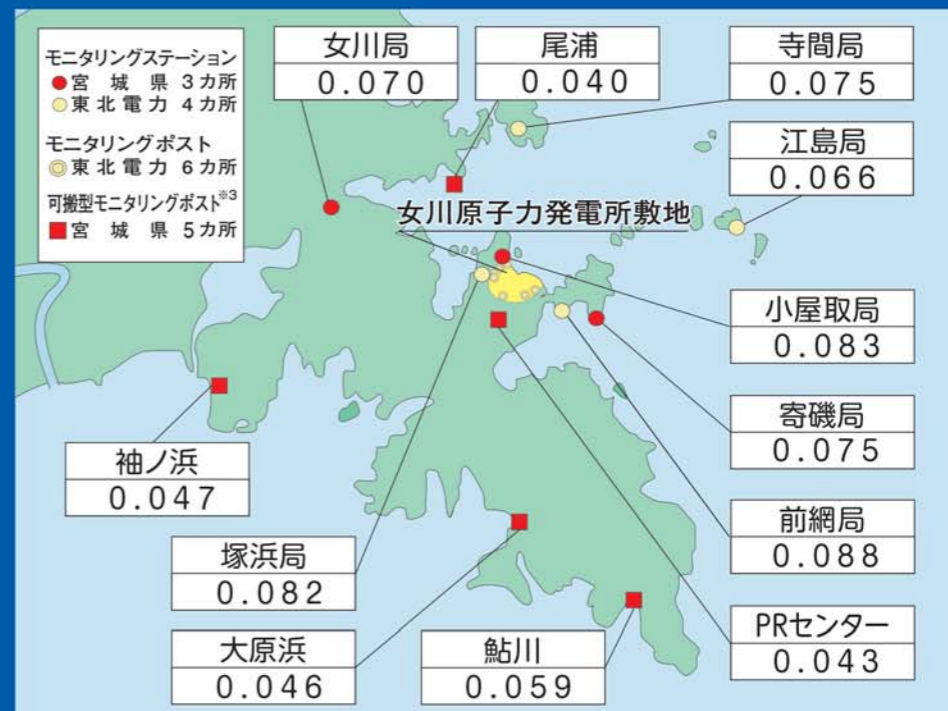
10月27日(金)女川町勤労青少年センターで「花さか爺さん」を上演しました。

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト^{※1}やモニタリングステーション^{※2}で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.052マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

モニタリングステーションの測定状況(10/31現在)



単位: マイクロシーベルト/時

(参考) モニタリングポストの最小値と最大値

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	平成23年3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	平成23年3月13日	1.8~21 ^{※4}
〈地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値〉	平成24年4月1日	0.063~0.098
	平成25年4月1日	0.055~0.076
	平成26年4月1日	0.046~0.065
	平成27年4月1日	0.043~0.077
	平成28年4月1日	0.041~0.061
	平成29年4月1日	0.038~0.059
	平成29年10月1日	0.038~0.053
	平成29年10月31日	0.037~0.052

単位: マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(平成23年3月13日)の値、毎年度(4月1日)の値、至近の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。